

都道府県番号	12
都道府県名	千葉県
(<input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>)	

・学校名及び規模

木更津市立請西小学校									
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	5	4	4	3	3	3	2	24	32
児童数	164	133	131	105	109	98	3	743	

・実践研究の概要

<p>・主題（テーマ）</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>基礎・基本を身につけ進んで問題解決しようとする児童の育成 — 算数科における習熟度別学習を通して —</p> </div> <p>・テーマ設定の趣旨</p> <p>本校では「キラリ 輝きをもった子どもを育てる」を学校教育目標に掲げ、「自分の考えを持って進んで学習する子」を求める児童像の一つとしている。自分の個性を生かした生き方を見つけ心豊かに生きていくためにも、自ら考えや課題を持ちそれを解決しようとする意欲を育てていくことが大切である。</p> <p>本校児童は活気にあふれ学習意欲も旺盛であるが、一方で学習が受け身になったり自分自身で考え工夫していこうとする態度に欠けたりする傾向も見られる。また、算数科は他の教科に比べて個人差が非常に大きく、既習の学習や経験をもとに筋道立てて考え自力解決しようとする意欲が持てなかったり、考えを表現することができなかったりするなど、思考力・応用力にやや欠ける児童も見られる。</p> <p>平成13年度より算数科に視点をあて研究を進めてきた。系統学習であるという教科の特性からも全校で研究を進めていくことに大きな意義があると考えたからである。本校では年々児童数が増え、今後もさらに学級数の増加が見込まれている。このような学校事情を抱えた大規模校であるという面からも、現状の中でどのように学習を進め、指導法を改善していくか大きな課題でもある。学年や少人数指導教員等の組織力を生かして研究体制を確立し、基礎・基本となる学力を身につかせ思考力を育てることを目指して研究を進めたいと考え、本主題を設定した。</p>
--

・実践研究の内容について

- () 研究体制の工夫
 - ・学年を基盤とした研究体制を組むことにより、多くの教師の力を結集して同一步調で日々の研究に取り組めるようにした。一人では不可能なことも学年という組織の中で可能になり、互いに向上心を持って刺激し合い協力しながら研究を推進する。
- () 実践研究の内容

1.【習熟度に応じた学習形態の工夫】

単元の特性や児童の実態に応じて習熟度別（少人数）学習をどのように取り入れるのが効果的であるか検討しながら、各学年で様々な形態での学習を実践。

習熟度別少人数学習 <学年オ・ブン>

(実践例)

2年「たし算とひき算のひっ算」

- ・ 4学級 6グループ(3コース)
- ・ 基礎コースはT・T体制をとり、それぞれのコースの習熟により素材提示の工夫や数え棒の活用など、一人一人のつまずきに応じた手だてを講じた。

5年「小数のかけ算とわり算」

- ・ 3学級 5グループ(5コース)
- ・ 基礎コースの2つはできるだけ少人数(10名前後)におさえ、じっくり問題に取り組み理解できるようにした。

4年「わり算」

- ・ 3学級 4グループ(3コース)
- ・ 基礎コースはT・T体制をとり個々のつまずきに対応できるようにした。発展コースでは考えを練り上げる過程を大切にした。

習熟度別少人数学習 <学年2集団によるオープン>

(実践例)

1年「ひき算」

- ・ 1学年5学級で児童数が160名を超えるため2学級と3学級の2つの集団にし時間帯を分けて実施。
 - <先行クラス> 2学級 4グループ(4コース)
 - <後行クラス> 3学級 5グループ(4コース)
- ・ 加減計算の基礎となる単元であることから確実に定着できるように段階を追った問題の工夫、具体物の利用、ゲーム的活動を取り入れるなど配慮した。
- ・ 後行クラスは先行クラスの反省をふまえ指導に生かすようにした。

習熟度別学習 <学年オープン>

(実践例)

6年「単位置あたり」

- ・ 3学級 3グループ(3コース)
- ・ 基礎コースはT・T体制を採り個々のつまずきに対応した。

習熟度別少人数学習 <学級内>

等質少人数学習 <学級内>

単元の特性や日課などを考慮して
3～6学年で実施。

課題別選択学習 <学年オープン>

(実践例)

3年「チャレンジ計算ランド」

- ・ 年間を見通して基礎基本となる計算領域に着目し、習熟を図るために再構成したオリジナル単元である。
- ・ 学年4学級をオープンにして4つの課題(コース)を設定。その中から選択し挑戦できるようにした。

2.【一部教科担任制】

高学年において算数科以外の一部教科について学年内での教科担任制を実施。

(実践内容)

5年生	教科・・・国語科・社会科・理科
	期間・・・1学期は各教科1単元のみ試行 2学期は全単元(全時間)実施
6年生	教科・・・社会科・理科・体育科

期 間・・・2学期に1ヶ月間
3学期にも実施

() 成果と課題

【習熟度に応じた学習形態の工夫】について

< 成 果 >

習熟度別学習により、児童一人一人が意欲的に学習することができた。

- ・低位児の理解度やつまずきに応じた手立てが可能になり、挙手や発言の機会も増え自信が持てるようになってきた。
- ・上位児はお互い刺激を受けたり考えを練り上げたりすることができた。また、発展的な学習により満足感が得られた。

計算の習熟についてはかなり定着が見られる。事後テストで伸びが表れている。学年の担当教師が力を結集、組織力が生かされた。

- ・教材研究の深まりや指導内容の焦点化
- ・一貫性のある指導の実現
- ・教材教具の創意工夫

評価カードを活用することができた。

計算の習熟だけでなく思考面を伸ばすような学習が徐々にできてきた。

< 課 題 >

学年での準備の時間を確保することが難しい。

- ・打ち合わせや話し合い
 - ・教材研究の時間
 - ・日常的な反省や改善のための検討時間
 - ・行事との関連による調整
- 複数学年が同時に展開する場合、場所や日課の調整が複雑で困難である。
単元を通してコース別の細案が必要である。

上位児をどう伸ばすか発展的な学習についての研究が不十分である。

さらに評価カードの形式や内容を追求し改善していく必要がある。

【一部教科担任制】について

< 成 果 >

学級の枠を越えて児童に関わることができ学年の児童理解につながった。

教師の得意分野を生かした指導ができ学習意欲を高めることができた。また、専門的な見地から指導の工夫がなされ教師自身の研修の機会ともなった。

評価規準を学年で統一することができた。

< 課 題 >

教科の時数の関係から年間を通じて完全に交換することは難しい。

様々な都合がからみ日課の変更がなかなかできない。先を見通した日課表の作成など、学校の教育課程全体に関わる体制作りが必要となる。

出張者などにより教師が不在になる場合の対応が難しい。ゆとりある指導者の配置が望まれる。

教科担任制、習熟度別学習、専科の授業により学級担任が担当学級を指導する時間が少なくなるため、学級の児童の掌握が十分にできなくなることも懸念される。

小学校における教科担任制のデメリットについても十分考慮した上で進めたい。

() 成果の普及方策

- ・授業研究会の開催について近隣の小・中学校に知らせて参加を呼びかけ意見をいただくとともに合同研究の機会とする。
- ・木更津市の研究指定校でもあることから、中間報告書により市内全小・中学校に研究経過を広める。
- ・本校ホームページに取り組みについて掲載する。

